

1

- 1 ああ、むかしは、
 国民の満ちみちていたこの都、
 国々の民のうちで大いなる者であったこの町、
 今は寂しいさまで座し、やめめのような者になった。
 もろもろの町のうちで女王であった者
 今は奴隷となった。
- 2 これは夜もすがらいたく泣き悲しみ、
 そのほおには涙が流れている。
 そのすべての愛する者のうちには、
 これを慰める者はひとりもなく、
 そのすべての友はこれにそむいて、その敵となった。
 3 エダは悩みのゆえに、
 また激しい苦役のゆえに、のがれて行って、
 もろもろの国民のうちに住んでいるが、安息を得ず、
 これを追う者がみな追いついてみると、
 悩みのうちにあつた。
- 4 シオンの道は祭に上つてくる者のないために悲しみ、
 その門はことごとく荒れ、
 その祭司たちは嘆き、
 そのおとめたちは引かれて行き、
 シオンはみずからいたく苦しむ。
 5 そのあだはかしらとなり、その敵は榮えている。
 そのとがが多いので、
 主がこれを悩まされたからである。
 その幼な子たちは捕われて、あだの前に行つた。
 6 シオンの娘の榮華はことごとく彼女を離れ去り、
 その君たちは牧草を得ない、しかのようになり、
 自分を追う者の前に力なく逃げ去つた。
 7 エルサレムはその悩みと苦しみの日に、
 昔から持っていたもろもろの宝を思い出す。
 その民があだの手に陥り、
 だれもこれを助ける者のない時、
 あだはこれを見て、その滅びをあざ笑つた。
 8 エルサレムは、はなはだしく罪を犯したので、
 汚れたものとなつた。
 これを尊んだ者も皆その裸を見たので、
 これを卑しめる。
 9 その汚れはその衣のすそにあり、
 これはその終りを思わなかつた。
 それゆえ、これは驚くばかりに落ちぶれ、
 これを慰める者はひとりもない。
 「主よ、わが悩みを顧みてください、
 敵は勝ち誇っていますから」。
- 10 敵は手を伸べて、その財宝をことごとく奪つた。
 あなたがさきに異邦人らはあなたの公会に、
 はいつてはならないと命じられたのに、
 彼らがその聖所にはいるのをシオンは見た。
 11 その民はみな嘆いて食物を求め、
 その命をささえるために、財宝を食物にかえた。
 「主よ、みそなわして、
 私の卑しめられるのを顧みてください」。

I - Zion

1

- 12 「すべて道行く人よ、
 あなたがたはなんとも思わないのか。
 主がその激しい怒りの日に私を悩まして、
 私にくだされた苦しみのような苦しみが、
 また世にあるだろうか、尋ねて見よ。
 13 主は上から火を送り、
 それをわが骨にくだし、
 網を張つてわが足を捕え、
 私を引き返させ、
 ひねもす心わびしく、かつ病み衰えさせられた。
 14 私のとがは、つかねられて、
 一つのくびきとせられ、
 主のみ手により固く締められて、
 私の首におかれ、
 私の力を衰えさせられた。
 15 主は私を、立ちむかい得ざる者の手に渡された。
 16 主は私のうちにあるすべての勇士を無視し、
 聖会を召集して、私を攻め、
 わが若き人々を打ち滅ぼされた。
 主は酒ぶねを踏むように、
 エダの娘なるおとめを踏みつけられた。
 17 このために、私は泣き悲しみ、
 私の目は涙であふれる。
 私を慰める者、私を勇気づける者が
 私から遠く離れたからである。
 わが子らは敵が勝つたために、
 わびしい者となつた」。
- 17 シオンは手を伸ばしても、
 これを慰める者はひとりもない。
 ヤコブについては、主は命じて、
 その周囲の者を、これがあだとせられた。
 エルサレムは彼らの中にあつて、
 汚れた物のようになつた。
 18 「主は正しい、
 私は、み言葉にそむいた。
 すべての民よ、聞け、
 わが苦しみを顧みよ。
 わがおとめらも、わが若人らも捕われて行つた。
 19 私はわが愛する者と呼んだが、
 彼らは私を欺いた。
 わが祭司および長老たちは、その命をささえようと、
 食物を求めている間に、町のうちで息絶えた。
 20 主よ、顧みてください、
 私は悩み、わがはらわたはわきかえり、
 わが心臓は私の内に転倒しています。
 私は、はなはだしくそむいたからです。
 外にはつるぎがあつて、わが子を奪い、
 家の内には死のようなものがある。
 21 私がどんなに嘆くかを聞いてください。
 私を慰める者はひとりもなく、
 敵はみな私の悩みを聞いて、
 あなたがこれをなされたのを喜んだ。
 あなたがさきに告げ知らせたその日をきたらせ、
 彼らをも、私のようにしてください。
 22 彼らの悪をことごとくあなたの前にあらわし、
 さきにわがもろもろのとがのために、
 私に行われたように、彼らにも行ってください。
 わが嘆きは多く、
 わが心は弱りはてているからです」。

シオンの悩み、苦しむ

he-YHWH

2

1 ああ、主は怒りを起し、
 黒雲をもってシオン¹の娘をおおわれた。
 主はイスラエルの栄光を天から地に投げ落とし、
 その怒りの日に、
 おのれの足台を心にとめられなかった。
 2 主はヤコブのすべてのすまいを
 滅ぼして、あわれまず、
 その怒りによって、ユダの娘のとりでをこわし、
 これを地に倒して、
 その国とつかさたちをはずかしめられた。
 3 主は激しい怒りをもって、
 イスラエルのすべての力を断ち、
 敵の前で、おのれの右の手を引きもどし、
 周囲を焼きつくす燃える火のように、
 ヤコブを焼かれた。
 4 主は敵のように弓を張り、
 あだのように右の手を伸べて立ち、
 シオン²の娘の天幕におるわれわれの目に誇る者を、
 ことごとく殺し、
 火のようにその怒りを注がれた。
 5 主は敵のようになつて、イスラエルを滅ぼし、
 そのすべての宮殿を滅ぼし、そのとりでをこわし、
 ユダの娘の上に憂いと悲しみを増し加えられた。
 6 主は園の小屋のようにおのれの幕屋を倒し、
 その祭の場所をこわされた。
 主は祭と安息日とをシオンに忘れさせ、
 激しい怒りによって、王と祭司とを捨てられた。
 7 主はその祭壇を忌み、その聖所をきらつて、
 もろもろの宮殿の石がきを敵の手に渡された。
 彼らは祭の日のように、主の宮で声をあげた。
 8 主はシオン³の娘の城壁を破壊しようと
 思い定めて、なわを張り、
 打ちこわして、その手をひかず、
 城壁と石がきを悲しませられた。
 これらは共に衰える。
 9 その門は地にうずもれ、
 主はその貫の木をこわし砕かれた。
 その王と君たちはもろもろの国民の中におり、
 もはや律法はなく、
 またその預言者は主から幻を得ない。
 10 シオン⁴の娘の長老たちは地に座して黙し、
 頭にちりをかぶり、身に荒布をまとつた。
 エルサレムのおとめたちはこうべを地にたれた。
 11 わが目は涙のためにつぶれ、
 わが肝はわが民の娘の滅びのために、
 地に注ぎ出される。
 幼な子や乳のみ子が町のちまたに
 息も絶えようとしているからである。
 12 彼らが、傷ついた者のように町のちまたで
 息も絶えようとするとき、
 その母のふところ⁵にその命を注ぎ出そうとするとき、
 母にむかつて、「パンとぶどう酒とは
 どこにありますか」と叫ぶ。

they 王...

you-Zion

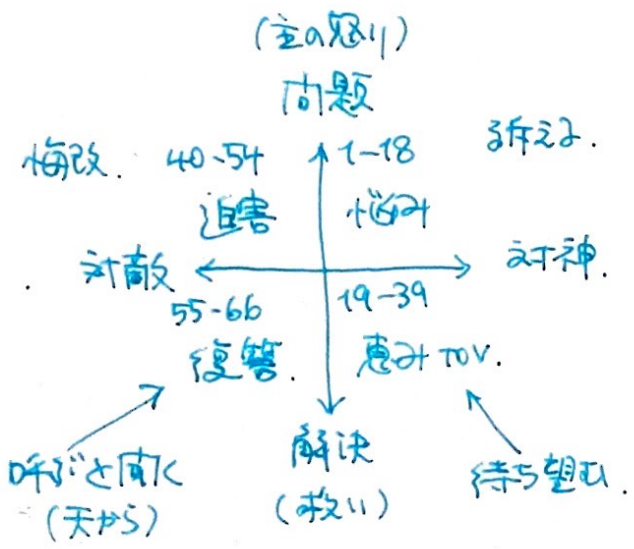
2

13 エルサレム⁶の娘よ、私は何をあなたに言い、
 何にあなたを比べることができようか。
 シオン⁷の娘なるおとめよ、
 私は何をもつてあなたになぞらえて、
 あなたを慰めることができようか。
 あなたの破れは海のように大きい、
 だれがあなたをいやすことができようか。
 14 あなたの預言者たちはあなたのために
 人を欺く偽りの幻を見た。
 彼らはあなたの不義をあらわして
 捕われを免れさせようとはせず、
 あなたのために人を迷わす偽りの託宣を見た。
 15 すべて道行く人は、あなたにむかつて手を打ち、
 エルサレム⁸の娘にむかつて、あざ笑い、
 かつ頭を振つて言う、
 「麗しさのきわみ、全地の喜びと
 となえられた町はこれなのか」と。
 16 あなたのもろもろの敵は、あなたをののしり、
 あざ笑い、歯がみして言う、
 「われわれはこれを滅ぼした、
 ああ、これはわれわれが望んだ日だ、
 今われわれはこれにあい、これを見た」と。
 17 主はその計画されたことを行い、
 警告されたことをなし遂げ、
 いにしえから命じておかれたように、
 滅ぼして、あわれむことをせず、
 あなたについて敵を喜ばせ、
 あなたのあだの力を高められた。
 18 シオン⁹の娘よ、声高らかに主に呼ばわれ、
 夜も昼も川のように涙を流せ。
 みずから安んじることがせず、
 あなたのひとみを休ませるな。
 19 夜、初更に起きて叫べ。
 主の前にあなたの心を水のように注ぎ出せ。
 町のかどで、飢えて
 息も絶えようとする幼な子の命のために、
 主にむかつて両手をあげよ。
 20 主よ、みそなわして、顧みてください。
 あなたはだれにむかつて
 このように行われたのですか。
 女は自分の産んだ子、
 その大事に育てた幼な子を食べるでしょうか。
 祭司と預言者が主の聖所で殺されていいでしょうか。
 21 老いも若きも、ちまたのちに伏し、
 わがおとめも、若人も、
 つるぎで倒されてしまった。
 あなたは、その怒りの日にこれを殺し、
 これをほふつて、あわれむことをされなかった。
 22 あなたは、私の恐れるものを、
 祭の日のように四方から呼び集められた。
 主の怒りの日には、
 のがれた者も残つた者もなかった。
 私が、いただき育てた者が
 私の敵は滅ぼし尽した。

聖所の涙は
 敵にみこ
 怒りの日



悩み. 苦しみ.



恵み. 待た望む.

3

- 1 私は彼の怒りのむちによって、悩みにあつた人である。
- 2 彼は私をかり立てて、光のない暗い中を歩かせ、
- 3 まことにその手をしばしばかえて、ひねもす私を攻められた。
- 4 彼はわが肉と皮を衰えさせ、わが骨を砕き、
- 5 苦しみと悩みをもって、
- 6 遠い昔に死んだ者のように、暗い所に住まわせられた。
- 7 彼は私のまわりに、かきをめぐらして、出ることのできないようにし、
- 8 重い鎖で私をつながれた。
- 9 私は叫んで助けを求めたが、彼は私の祈をしりぞけ、
- 10 切り石をもって、私の行く道をふさぎ、私の道筋を曲げられた。
- 11 わが道は私に対して待ち伏せするくまのように、
- 12 潜み隠れるししのよう、
- 13 見るかげもないみじめな者とし、私の弓を張って、
- 14 私を矢の的のようにされた。
- 15 私はその腹の矢を、私の心臓に打ち込まれた。
- 16 ひねもす彼らの歌となり、
- 17 灰の中に私をころがされた。
- 18 わが魂は平和を失い、私は幸福を忘れた。
- 19 そこで私は言った、「わが榮えはうせ去り、私が主に望むところのものもうせ去つた」と。

悩み. 苦しみ. 悩み - 怒り

死.

恵み. 待た望む - 主を待た望む

TOV.

3

- 19 どうか、わが悩みと苦しみに、
- 20 ながよもぎと胆汁とを心に留めてください。
- 21 わが魂は絶えずこれら思つて、わがうちにうなだれる。
- 22 しかし、私はこの事を心に思い起す。それゆえ、私は望みをいだく。
- 23 主のいつくしみは絶えることがなく、そのあわれみは尽きることがない。
- 24 これは朝ごとに新しく、あなたの真実は大い。
- 25 わが魂は言う、「主は私の受くべき分である、それゆえ、私は彼を待ち望む」と。
- 26 主はおのれを待ち望む者と、おのれを尋ね求める者にむかつて恵みふかい。
- 27 主の教を静かに待ち望むことは、良いことである。
- 28 人が若い時にくびきを負うことは、良いことである。
- 29 主がこれを負わせられるとき、ひとりすわつて黙しているがよい。
- 30 口をちりにつけよ、あるいはなお望みがあるであろう。
- 31 おのれを撃つ者にほお向け、満ち足りるまでに、はずかしめを受けよ。
- 32 主はとこしえにこのような人を捨てられないからである。
- 33 彼は悩みを与えられるが、そのいつくしみが豊かなので、またあわれみをたれられる。
- 34 彼は心から人の子である。
- 35 苦しめ悩ますことをされないのである。
- 36 地のすべての捕われ人を足の下に踏みじり、いと高き者の前に人の公義をまげ、
- 37 主の訴えをくつがえすことは、主のよみせられないことである。見てほしい、だれが命じられたのでなければ、
- 38 主が命じられたのでなければ、
- 39 災もさいわいも、いと高き者の口から出るではないか。
- 40 生ける人はどうしてつぶやかねばならないのか、人は自分の罪の罰せられるのを、つぶやくことができようか。



怒りに滅ぼす

ピルベント歌

1. $abc22 \times 3 = 66$ 行

2. $abc22 \times 3 = 66$

3. $(a \times 3 . b \times 3 . c \times 3) \times 22 = 66$

4. $abc22 \times 2 = 44$

5. $\times abc = 22$

a...
a...
a...
b...
b...
b...

[詩119 = (a x 8 . b x 8 . c x 8 ...) x 22 = 176]

対敵

問題

解決

怒り 滅ぼす

敵の攻撃

穴に落とす

悔い改め

敵に復讐

穴から救い出す

いへるまがらう

復讐

3
 40 われわれは、自分の行いを調べ、
 かつ省みて、主に帰ろう。
 41 われわれは天にいます神にむかって、
 手と共に心をもあげよう。
 42 「私たちは罪を犯し、そむきました、
 あなたはおゆるしになりませんでした。
 43 あなたは怒りをもってご自分をおおい、
 私たちを追い攻め、殺して、あわれまず、
 44 また雲をもってご自分をおおい、
 祈を通じないようにし、
 45 もろもろの民の中に、
 私たちをちりあくたとなさいました。
 46 敵はみな私たちをのしり、
 47 恐れと落し穴と、荒廃と滅亡とが、
 私たちに臨みました。
 48 わが民の娘の滅びによって、
 私が目には涙の川が流れています。
 49 わが目は絶えず涙を注ぎ出して、やむことなく、
 50 主が天から見おろして、
 顧みられる時にまで及ぶでしょう。
 51 わが目はわが町のすべての娘の最期のゆえに、
 私を痛ませます。
 52 ゆえなく私に敵する者どもによって、
 私は鳥のように迫られました。
 53 彼らは生きている私を穴の中に投げ入れ、
 私の上に石を投げつけました。
 54 水は私の頭の上にあふれ、
 私は「断ち滅ぼされた」と言いました。

3
 55 主よ、私は深い穴からみ名を呼びました。
 56 あなたはわが声を聞かれました、
 「わが嘆きと叫びに耳をふきがないでください」。
 57 私があなたに呼ばわったとき、
 あなたは近寄って、「恐れるな」と言われました。
 58 主よ、あなたはわが訴えを取りあげて、
 私の命をあがなわれました。
 59 主よ、あなたは私がこうむった不義を
 ごらんになりました。
 私に訴えをおさばってください。
 60 あなたは私に対する彼らの報復と、
 陰謀とを、ことごとくごらんになりました。
 61 主よ、あなたは私に対する彼らのそしりと、
 陰謀とを、ことごとく聞かれました。
 62 立つて私に逆らう者どものくちびると、
 その思いは、ひねもす私を攻めています。
 63 どうか、彼らのすわるをも、立つをも、
 みそなわしてください。
 私は彼らの歌となつています。
 64 主よ、彼らの手のわざにしたがつて、彼らに報い、
 65 彼らの心をかたくなにし、
 あなたののろいを彼らに注いでください。
 66 主よ、怒りをもって彼らを追い、
 天が下から彼らを滅ぼしてください」。

19.

352 行.

13.

1-3

198 行

$\div 2 \text{ 99 節} + 22 + (22 \div 2 = 11) = 132 \text{ 節}$



4

they

he-YHWH

we-Zion

4

17 われわれの目は、むなしく助けを待ち望んで
疲れ衰えた。

われわれは待ち望んだが、
救を与え得ない国びとを待ち望んだ。

18 人々がわれわれの歩みをうかがうので、
われわれは自分の町の中をも、

歩くことができなかつた。

われわれの終りは近づいた、日は尽きた。

19 われわれを追う者は空のはげたかよりも速く、
彼らは山でわれわれを追い立て、

野でわれわれを待ち伏せる。

20 われわれが鼻の息とたのんだ者、
主に油そそがれた者は、彼らの落し穴で捕えられた。

彼はわれわれが「異邦人の中でも
その陰に生きるであろう」と思つた者である。

21 ウズの地に住むエドムの娘よ、
喜び樂しめ、

あなたにもまた杯がめぐつて行く、
あなたも酔つて裸になる。

22 シオンの娘よ、あなたの不義の罰は終つた。
主は重ねてあなたを捕え移されない。

エドムの娘よ、主はあなたの不義を罰し、
あなたの罪をあらわされる。

1 ああ、黄金は光を失ひ、
純金は色を変じ、
聖所の石は

すべてのちまたのかどに投げ捨てられた。

2 ああ、精金にも比すべきシオンのいとし子らは、
陶器師の手のわざである土の器のようにみなされる。

3 山犬さえも乳ぶさをたれて、その子に乳を飲ませる。
ところが、わが民の娘は、

荒野のだちようなうに無慈悲になつた。

4 乳のみ子の舌はかわいて、上あごに、ひたとつき、
幼な子らはパンを求めても、これに与える者がない。

5 うまい物を食べていた者は、
落ちぶれて、ちまたにおり、

紫の着物で育てられた者も、
今は灰だまりの上に伏している。

6 わが民の娘のうけた懲しめは、
ソドムの罰よりも大きかつた。

ソドムは昔、人の手によらないで、
またたくまに滅ぼされたのだ。

7 わが民の君たちは雪よりも清らかに、
乳よりも白く、

そのからだは、さんごよりも赤く、
その姿の美しさはサファイヤのようであつた。

8 今はその顔はすすよりも黒く、
町の中においても人に知られず、

その皮膚は縮んで骨につき、
かわいて枯れ木のようになつた。

9 つるぎで殺される者は、
飢えて死ぬ者よりもさいわいである。

彼らは田畑の産物の欠乏によつて、
刺された者のように衰え行くからである。

10 わが民の娘の滅びる時には
情深い女たちさえも、

情深い女たちさえも、
手ずから自分の子どもを煮て、それを食物とした。

11 主はその憤りをことごとく漏らし、
激しい怒りをそそぎ、

シオンに火を燃やして、
その礎までも焼き払われた。

12 地の王たちも、世の民らもみな、
エルサレムの門に、あだや敵が、

討ち入ろうとは信じなかつた。
13 これはその預言者たちの罪のため、

その祭司たちの不義のためであつた。
彼らは義人の血をその町の中に流した者である。

14 彼らは盲人のように、ちまたにさまよい、
血で汚れている。

だれもその衣にさわることができない。
15 人々は彼らにむかつて、「去れよ、けがらわしい」、

「去れよ、去れよ、さわるな」と叫んだので、
彼らは逃げ去つて放浪者となつたが、

異邦人の中でも人々は「もうわれわれのうち
宿つてはならない」と言つた。

16 主はみずから彼らを散らして、
再び彼らを顧みず、

祭司を尊ばず、
長老をいたわれなかつた。

不義の罰 終りの日
罪 懲らしめ



- 1 主よ、われわれに臨んだ事を覚えてください。
- 2 われわれの罪業は他国の人に移り、家は異邦人のものとなった。
- 3 われわれはみなしごととなつて父はなく、母はやもめにひとしい。
- 4 われわれは金を出して水を飲み、餓を払つて、たきぎを獲なければならぬ。
- 5 われわれは首にくびぎをかけられて追い使われ、疲れても休むことができない。
- 6 われわれは足りるだけの食物を獲るために、エジプトおよびアッスリヤに手をさし伸べた。
- 7 われわれの先祖は罪を犯して、すでに世になく、われわれはその不義の責めを負っている。
- 8 奴隸であつた者がわれわれを治めるが、われわれはその手から救い出す者がない。
- 9 われわれは荒野のつるぎのゆえに、おのが命をかけて食物を獲る。
- 10 われわれの皮膚は飢饉の激しい熱のために、垢のように熱い。
- 11 女たちはシオンで犯され、おとめたちはユダの町々で汚された。
- 12 君たる者も彼らの手でつるぎ、長老たちも尊ばれず、若者たちは、ひきうすをになわせられ、わらべたちは、たきぎを負つて、よろめぎ、若者たちはその音楽を廃した。
- 15 われわれの心の喜びはやみ、踊りは悲しみに変わり、
- 16 われわれの冠はこうべから落ちた。わざわいなるかな、われわれは罪を犯したからである。
- 17 このために、われわれの心は衰え、これらの事のために、われわれの目はくらくなった。
- 18 シオンの山は荒れはて、山犬がその上を歩いているからである。
- 19 しかし主よ、あなたはとこしえに統べ治められる。あなたのみ位は世々絶えることがない。
- 20 なぜ、あなたはわれわれをながく忘れ、われわれを久しく捨ておかれるのですか。
- 21 主よ、あなたに帰らせてください、われわれは帰ります。
- 22 われわれの日を新たにしてい、いにしえの日のようにしてください。
- 23 あなたは全くわれわれを捨てられたのですか、はなはだしく怒っていられるのですか。

悔い改め 罪の告白
(1婦子)

